Laureus
SPORT FOR GOOD

年次報告書
2020
困難に立ち向かう

目次

マーベラスの成し遂げた偉業 ～マーベラスを偲んで 04

チームプレー 05

2020年「かつてないチャレンジの一年」 06

危機への対応 10

充実した時間 13

2020年の世界における足跡 16

世界的な影響 18

ローレウスの取り組み 20

Everyone Wins (誰もが勝者に) 25

都市から世界を変える 27

各スポーツの参加者 29

研究・学習コミュニティ 30

グリーン・チャレンジ 32

アドボカシー活動と影響 34

ローレウス・ワールド・スポーツ・アワード 35

ローレウスの財源 38

スポーツが不平等を打破するたびに、誰もが勝者に

マーベラスの成し遂げた偉業
～マーベラスを偲んで

昨年私たちが学んだのは、誰もが喪失の痛みと無縁ではないということです。何十万人もの死者を示すグラフを目にすると、その数字の大きさは想像を絶することがあります。しかし、その数字は、失われた命を示しており、その命一つ一つに深く悲しむ家族や友人、チームメイト、仲間たちがいるのです。

私にとって、そしてローレウス・アカデミーの数多くの仲間たちにとって、2021年3月に仲間であるマーベラス・マービン・ハグラーが66歳で自宅で急逝したという知らせは、かつてない悲しみをもたらしました。万事においてチャンピオンとしての存在感を示したマーベラスは、リング上では偉大な闘士であり、リング外ではさらに偉大なヒーローであることを証明しました。マーベラスが人生に対して、そして奥様のケイとご家族、スポーツ界に注いだ愛は、他の追随を許さないものでした。

マーベラスは他のアカデミーの仲間たちと同様、ローレウス財団の基本理念「スポーツ・フォー・グッド」が持つ力を信じていました。彼は若者たちとともに時間を過ごす中で、若者たちが直面している大きな困難を克服するうえでスポーツがどのような役割を果たすことができるかを目の当たりにし、勇気づけられていました。その点でマーベラスは私たちと多くの志を共にしており、この年次報告書で語られる1つ1つのストーリーを誇りに思ってくれることでしょう。

2020年は、ネルソン・マンデラ氏の言葉に含まれる真理が改めて証明された年でした。人種の壁を取り払い、降りかかる差別を笑い飛ばすという必要性が、かつてないほど高まっていることが証明されました。若者に語りかける必要性がかつてないほど高まっていることが証明されました。そして、私たちが希望を創り出し、絶望を克服できることが証明されました。

グローバル・パートナーであるIWCシャフハウゼン、メルセデス・ベンツ、三菱UFJフィナンシャル・グループ、そして未曾有の年であった2020年を通じてローレウス・スポーツ・フォー・グッド財団をご支援くださった皆様に、心より感謝を申し上げます。ローレウス・アカデミーの全員はこれまで長年にわたり、全世界の各地で数多くのプログラムを訪問し、長きにわたりつながりを築いてきました。私たちは、新型コロナウイルス感染症の流行による影響がさらに強まれば、非常に多くの若者の人生に大きな変化をもたらすことのできる私たちの活動の存続に危機も起こり得る、ということを理解しています。現地で若者への支援サービスを提供しているコーチやプログラムリーダー、彼らをサポートするローレウス財団のスタッフ、そしてマンデラ大統領の行動への呼びかけを実現するために尽力を続けるアカデミーのメンバー、そしてアンバサダーの皆様に、心から感謝の意を表したいと思います。

私たちはこれからも一丸となって、スポーツには世界を変える力があることを伝え続けていきます。マーベラスも私たちを応援してくれているはずです。

エドウィン・モーゼス
ローレウス・スポーツ・フォー・グッド財団　チェアマン

チームプレー

ローレウス・ワールド・スポーツ・アワードはスポーツ界における活躍やインスピレーションを表彰することを目的とした賞のため、おかしな話に聞こえるかもしれませんが、私たちがローレウスでの取り組みを中止して成功を称えるというのは稀なことです。

コロナ禍では特にそれが顕著でした。新型コロナウイルス感染症の流行により、私たちが支援する若者たち、サポートするパートナー、そして私たちがその一員として誇りに感じている分野の直面する課題が悪化し、活動資源は限られ、過酷な状況下で活動を行う必要があり、2020年はかつてない過酷な年となりました。周りを見渡して、互いによくやったと称え合える時間はほぼ皆無だったのです。

けれども、称賛は時には必要です。とりわけ、スタッフやパートナー、アカデミーのメンバー、アンバサダーの皆様が、コロナ禍においても継続的に尽力してくださっただけでなく、その影響力をさらに高めてくださったことは、称賛すべきでしょう。本報告書に記載されている数字が、これを裏付けています。私たちの活動により、97,960人の子どもや若者が、ロックダウン期間中に社会からの孤立を感じにくくなりました。58,641人の子どもたちは、学校閉鎖にもかかわらず、コミュニティへの帰属意識を高めることができました。世界各地で学校が閉鎖される中、私たちは98,354人の子どもや若者が学校に通い、積極的に学業に参加して修了できるよう支援を行いました。家庭内暴力が増加する中、10,337人の子どもや若者が、女の子や女性への暴力に対して行動を起こしました。53,945人の若者が、雇用の機会を得るために必要なソフトスキルや技術的スキルを学びました。また、世界経済が困難に直面している中でも、私たちの雇用経路創出プログラムでは、39,772人を超える子どもや若者の職場体験やインターンシップの参加を支援しました。

このような困難な状況下でも支援を継続できたのは、現場で活躍するパートナーの皆様のおかげです。パートナーの皆様に、そして、仲間との物理的な距離やコロナ禍での課題に直面していたにもかかわらず、サポートが必要な人々を支援するために新たな協力の方法を見いだしたローレウス・チームに、感謝の意を表したいと思います。また、資金提供をしてくださったパートナーの皆様、特に、多くの優先事項や時間的・予算的要求に加え、新型コロナウイルス感染症の流行がもたらした最悪の影響に対応するための多大な努力を余儀なくされているにもかかわらず、このような重要な活動を継続的に支援してくださったグローバル・パートナーのIWCシャフハウゼン、メルセデス・ベンツ、三菱UFJフィナンシャル・グループにも、心から感謝を申し上げます。

開発のためのスポーツはチームプレーです。力を合わせることで、私たちはどんな困難も乗り越えられると信じています。 ロックダウンや社会的な隔離が必要な時代であっても、それは変わらないのです。

皆様のご支援に、心より感謝いたします。

アダム・フレーザー
ローレウス・スポーツ・フォー・グッド財団　最高経営責任者

2020年「かつてないチャレンジの一年」

ロックダウン期間中に生まれた不平等は、家庭内だけではありませんでした。2020年、新型コロナウイルス感染症の流行による二次的な影響として、暴力や差別、社会的格差が実際に増加しました。隔離生活による孤立、若者の失業率の爆発的な上昇、家庭内暴力や児童虐待の増加、不平等の蔓延がメンタルヘルスや幸福感を悪化させ、その結果として社会における差別や暴力が増加しました。

平常時よりこのような課題に現場で取り組んでいるローレウスのパートナーたちですが、コロナ禍においてその役割を果たすことはかつてないほど困難なものとなりました。2020年のほとんどの期間、公衆衛生上の制限により活動の場は閉鎖され、これまでの人の集まる「開発のためのスポーツプログラム」といったイベントが禁止されてしまいました。テニスやネットボール、バスケットボールのコートには鍵がかけられ、サッカーやラグビーのピッチには立ち入り禁止のロープが張られました。陸上競技場、スイミングプール、スキー場、さらには学校も閉鎖されました。

世界各地のローレウスのパートナーたちは、若者を支援するというミッションに取り組む中で、新たな難しい課題に直面したのです。 ここからは、パートナーの皆様がこの未曾有の時代に継続的に若者の人生を変革するプログラムを提供するための革新的な方法を見いだし、こうした課題をどのように克服しているかを抜粋してご紹介します。

Sport dans la Ville（フランス）

フランスの代表的な非営利団体の1つであるSport dans la Villeは、1998年以降、スポーツを通じて恵まれない子どもや若者を支援しています。ローレウスはこの団体と協働し、10〜16歳の女の子たちがジェンダーに関する固定観念を克服できるよう支援しています。フランス全土がロックダウンされ、すべての活動の停止を余儀なくされたときも、Sport dans la Villeは迅速に対応し、全プロジェクトをオンライン配信に移行しました。ソーシャルメディアを通じてすべての参加者とのつながりを維持しつつ、ZoomやMicrosoft Teamsでスポーツや雇用経路創出に関するセッションを提供して、参加者に体を動かす機会を提供し、個々のフォローアップやメンタリングで参加者の心のサポートを行いました。

ChildFund Rugby（ベトナム）

ChildFund Rugbyは、ラグビーと生活技能を統合した「Pass It Back」プログラムのカリキュラムを用いて、アジアの恵まれないコミュニティに住む若者たちが課題を克服し、前向きな社会的変化をもたらし、コミュニティの中でリーダーシップを積極的に発揮できるよう支援しています。ローレウスが助成金を提供しているベトナムのホアビン地区の「Pass it Back」プログラムの活動は、1月末から5月中旬まで一時中断を余儀なくされましたが、この期間を利用してプログラムカリキュラムをコロナ禍に対応したものに変更することができました。活動制限を受け、すぐに2つのプログラムが作り出されました。「Reconnect Rapid」では5〜18歳の子どもたちを対象に、安全かつ前向きな環境で仲間と再びつながることができるよう、タグラグビーと生活技能のセッションを提供しました。また、もう1つのプログラム「Reconnect Teams」では、選手たちが社会的および情緒的な強みを身につけるための支援を提供しました。

Peres Center for Peace（イスラエル）

イスラエルの代表的な非営利NGOの1つであるPeres Center for Peace and Innovationは、平和構築プログラムを開発・実施しています。「Playing Fair, Leading Peace」プログラムでは、選ばれたユースリーダーが実績のある「スポーツを通じた平和教育」の方法論に関するトレーニングを受け、さまざまな学校で学ぶユダヤ人やアラブ人の生徒たちと一緒に活動を行っています。Peres Centerは厳しいロックダウンに対応し、このプログラムを年間を通じてオンラインで提供することにしました。多様性、文化、言語間学習に関する教材は、ヘブライ語とアラビア語で作成されています。またユースリーダーたちは、子どもたちが自宅でサッカーの練習ができるよう、ライブストリーミングによるサッカーセッションも開催しました。姉妹都市で予定されていた対面の活動は残念ながら実施できませんでしたが、バーチャルセッションを開催することで、子どもたちがオンラインで一緒に参加することができました。

> **私たちは、私たちのプログラムを成長させ、世界中のスポーツや開発に携わる仲間たちと新たなアイデアやベストプラクティスを交換できるという点で、ローレウス・ラーニング・コミュニティへの参加を重要視しています。**
>
> **Peres Center for Peace and Innovation**

St Columb's Park House（北アイルランド）

1994年に平和と和解のためのセンターとしてオープンしたSt Columb's Park Houseは、平和構築活動のための共有スペースを提供しています。2019年と2020年には、ローレウスとFight for Peaceの提携プログラム「Creating Pathways Programme」に参加しました。マギリガン刑務所の個人能力開発部門と緊密に連携し、北アイルランドの若年犯罪者を対象に個人能力開発、スポーツ、教育プログラムを提供しています。新型コロナウイルス感染症によりプログラムの実施は大打撃を受けました。対面での活動は一時中止され、またリモート配信も、囚人のインターネットのアクセスが厳しく禁止されているため実施できませんでした。そこでSt Columb's Park Houseは司法省と交渉し、Zoomを用いて囚人がバーチャル学習やスポーツセッションにアクセスする許可を受けることができました。これは参加者にとっても、このプログラム自体の重要性が認識されたという点においても、重大な出来事でした。そしてコロナ禍においても刑務所内で継続することができた数少ないプログラムの1つとなりました。

Boxgirls（ケニア）

Boxgirlsは、ボクシングを通じてナイロビの女の子たちの権利向上に取り組んでいます。女の子たが自分たちの権利を学べる安全な場所を作り、リーダーシップを促進し、教育を受ける機会を確保し、自尊心や自信を向上させながら、最終的には安全なコミュニティで尊厳ある暮らしを送り、社会の一員として対等に評価されることを目指しています。ロックダウン期間中、Boxgirlsは女の子たちを安全に支援する方法を見いだすため、活動の再構築を行いました。活動の参加者数を減らすとともに、実施セッション数を増やし、トーナメントやサミットを小規模化することで、ソーシャル・ディスタンスの確保を実現しました。また保護者との連携を強化し、自宅でできる運動や教育のセッションも実施しました。

Active Communities Network（イギリス）

Active Communities Network (ACN) は、スポーツを通じてスキルや自信、自尊心を高めることで、若者が雇用や教育、トレーニングで成功できるよう支援活動を行っています。ローレウスは、2008年からロンドン、マンチェスター、ベルファスト、ポーツマスにおける活動を支援しており、2019年にはアイルランドにおいても支援活動を開始しました。数か月におよぶロックダウンが続いていた2020年夏、ポーツマス港に集まった不満を抱えた何百人もの若者が次々と海への飛び込み練習を繰り返し、その際にアルコールやドラッグが使用されていたため、地元住民や地元企業との対立が激化しました。ACNは英国海軍から飛び込み用プールを借り受け、13〜15歳の子どもたちを集めて、南アフリカ代表チームの一人であるジェイミー・ガンドリー選手に夏の間、子どもたちのコーチを務めてもらいました。子どもたちは新しいスキルを安全に学習し、自分たちの行動が地域社会に与える影響を学びながら、トラブルから距離を置くことができました。ACNではすでに2021年の夏に向けて、イギリスの飛び込み選手でありオリンピックの銀メダリストであるピーター・ウォーターフィールドを、新しいコーチとして迎える計画を立てています。

TRASO（メキシコ）

TRASOは、メキシコシティの中でも十分な行政サービスが受けられていないタクバヤ地区の中心部を拠点に活動しています。2013年に設立されたTRASOは、ボクシングの力を用いて、暴力や麻薬の密売、非行を防止し、教育や生活技能、平和を推進するために活動しています。TRASOは2016年にCAPAZプログラムでローレウス・ファミリーの一員に加わりました。これは、5〜12歳の子どもとその親を、ボクシングや教育、セラピーを通じて支援するプログラムです。ロックダウン期間中、TRASOは迅速にオンライン学習プログラムを開発・実施し、ボクシングクラスと教育クラスをライブ配信と事前録画した動画の両方で提供しました。また、イベロアメリカーナ大学との長期提携を通じて、ソーシャル・ディスタンスを維持しながら、援助を必要とする参加者や家族に1対1のセラピーやグループセラピーのクラスの提供を続けました。

© Sandra Platten

Soccer In The Streets（アメリカ）

Soccer In The Streetsは、サッカーのトレーニングや、人格形成、雇用プログラムを通じて、アトランタの若者の権利向上を支援しています。ロックダウンが発令されたとき、コーチをどうやって維持していくか、という課題に直面しました。コーチの給料は慈善団体からの寄付金で賄われていますが、新型コロナウイルス感染症の流行でその寄付金が大幅に削減されたためです。また、42人のコーチのうち38人は業務委託だったため、政府による給与保護制度の給付も受けることができませんでした。そこでSoccer in The Streetsは迅速に対応し、提供するプログラム内容の変更を行いました。オンラインの自宅学習プログラムや、家庭へのフードデリバリー、また各参加者のニーズに合わせてコーチがオンラインまたは電話で提供するサッカートレーニングの動画といった8週間の学習カリキュラムを開発したのです。このような変更を行うことで、新たな資金調達の機会が生まれ、結果としてスタッフの大半を維持しつつ、新たな方法で若者の支援を行えるようになりました。

私たちはブラジルのローレウスから支援を受ける他のすべての団体とともに学習共有コミュニティに参加し、学びを共有する機会はコロナ禍でプロジェクトの目的を調整・達成する際に欠かせないものであり、非常に重要であると実感しました。

エドゥアルド・パチェコ、HURRA

危機への対応

ローレウス・スポーツ・フォー・グッドは、新型コロナウイルス感染症の流行初期にスポーツ・フォー・グッド対策基金を立ち上げ、世界各地で実施されている開発のためのスポーツプログラムの継続と、コロナ禍の若者を支援するために重要な新たな経路の確立を可能にしました。この基金を通じて、24の国・地域のスポーツのための開発に取り組む90団体に、小規模助成金と戦略的支援を提供することができました。

共同イニシアティブであるこの基金は、パートナーシップの力を証明しました。この基金は、Beyond Sport、Comic Relief、LA84財団、香港ラグビー協会コミュニテとDegreeィ財団、ケビン・デュラント・チャリティ財団、チューリッヒ基金とのパートナーシップにより設立されました。私たちは共に、子どもや若者を支援する開発のためのスポーツを継続的に提供しています。私たちは共に、メンタルヘルスや幸福感、教育、家庭内暴力やジェンダーによる暴力、雇用の機会の欠如など、新型コロナウイルス感染症の流行がもたらす二次的な影響に対応しています。

基金の支援により実現した、開発のためのスポーツの組織の活動例をいくつかご紹介します。

Disability Sports Coach（イギリス）

イギリスのDisability Sports Coachは、通常のプログラム参加者の75%がインターネットにアクセスできない状況の中、参加者とその家族が自宅で安全に体を動かせるよう、スポーツ用品セット200個を調達・配布しました。また、スポーツ用品の楽しい使い方を紹介した無料のアクティビティ・カードも作成しました。インターネットにアクセスできる人には、コーチと一緒に行えるオンラインプログラムを提供し、人とのつながりを維持し、孤立感を軽減させました。Disability Sports Coachは、ロックダウン期間中、障害をもつ約3,000人の人たちに支援を行い、孤立感を解消させ、心身の幸福感を向上させました。

> **ローレウスは、より強固な保護措置方針の作成を支援してくださり、新型コロナウイルス感染症に関する保護措置方針も採用しました。**
>
> ウィル・サマーズ、タムワース・ボクシング・クラブ

Luta Pela Paz（ブラジル）

Luta Pela Paz（Fight for Peace）は、スポーツ・フォー・グッド・レスポンス基金を通じて、リオデジャネイロのファヴェーラ（スラム街）のマレ地区の16のコミュニティに住む若い女性に支援を行っています。このプログラムは、新型コロナウイルス感染症の流行による二次的な影響でさらに困難な状況に置かれている女の子や若い女性を対象に、深刻化するジェンダーの不平等を緩和し保護ネットワークを構築することを目的としています。家庭内暴力の把握と対応を行い、最も弱い立場にある人たちにオンラインや電話で安全な場所を作り出し、精神的・社会的支援を提供し、若い女性や女の子たちに正確な情報や外部の保護サービスの紹介を行い、総合的な緊急支援を実施しています。このプログラムは2021年も継続して行われています。

© Thomas Cristofoletti / Ruom for UNICEF

Indochina Starfish Foundation（カンボジア）

コロナ禍において、子どものための監督者付きの安全なサッカープログラムを実施し続けるにはどうすればいいでしょうか？ カンボジアのIndochina Starfish Foundationは、「ソーシャルディスタンシング・フットボール」を考案しました。子どもたちはマスクを着用し、人と2メートル以上距離を保たなければならず、ルールを破ると「隔離」エリアに送られるというペナルティを受けます。また子どもたちはピッチに立つ前に体温を測り、手を洗わなければなりません。「コロナでもサッカーをするのはやめないわ」と語るニャニャは、友達とのつながりを持ちながら楽しい時間を過ごし、大好きなサッカーを続けることができました。

ケーススタディ

ラファ・ナダル財団「スペインの新パートナー」

著名なスポーツ選手たちがローレウスのミッションを共有したらどうなるでしょうか？ どんなに過酷な状況に直面しても、スポーツの力が人生を変えることができると証明されています。

2020年7月、ローレウスは恵まれない子どもや若者のためにラファ・ナダル財団と提携を結び、恵まれない地域に住むさまざまな民族の子どもや若者の支援を行っているパルマのラファ・ナダル財団センターと協力しています。2014年にパルマで設立されたラファ・ナダル財団センターは、毎年250人以上の恵まれない若者とその家族を支援してきました。センターのプログラムでは、重要な要素であるさまざまなスポーツを軸として、チーム精神、敬意、努力といった教育的価値の醸成に注力しています。財団は、2020年のコロナ禍において、食糧支援や学校支援、体を動かすための運動アクティビティ、センターで提供するプログラムの調整など、コミュニティの支援を継続するために尽力しました。

その他ローレウスがスペインで支援している活動の大部分では、社会的包摂と教育に焦点を当てています。スペインでローレウスの助成金支援を受けた最初のパートナーの1つが、スペシャルオリンピックスです。スペシャルオリンピックスは世界172の国・地域で、知的障害のある子どもや若者を中心に活動している団体です。

その他にも、マドリード・テニス連盟が実施する、社会的排除の危険のある14〜18歳の子どもを支援するプログラム「Pass the Net」、AGM Sportsの奨学金プログラム「I Have A Dream」、さまざまな能力の子どもや若者を支援するアレックス財団の「To Our Heroes」などのプログラムを、長年にわたって支援しています。

「陸上競技は私の人生観を変えました」と18歳のパブロは言います。

彼はまだ11歳だった2014年、マヨルカのラファ・ナダル財団センターのプログラムに参加しました。当時、彼は学校や友達の問題で悩んでいました。家では両親と不仲で、実母ともほとんど会っておらず、勉強に対するモチベーションが低く、学校の成績にもそれが表れていました。 学校の授業についていけなくなり、それが周囲との関り方にも悪影響を及ぼしていました。

陸上競技は私の人生観を変えました。

プログラムに参加したパブロに、コーチとメンターは親身になって、彼が家庭状況にうまく対応できるための方法を与えました。また、彼が学習する姿勢を身に付け、人生の原動力を見つけることができるようサポートを始めました。

スポーツはこのプロセスにおいて、重要な役割を果たしました。彼はこれまでに見られなかった興味や才能を見いだし始めたのです。スポーツ活動への参加を通じて、彼は自分のレジリエンス価値を実感し、自信を持ち、苦境から立ち直る力を付けていくことができるようになりました。

パブロは現在マヨルカの地元クラブで、陸上競技のコーチになるためのトレーニングを受けています。将来的にはラファ・ナダル財団センターのコーチになって恩返しをし、困難な状況にある子どもたちを支援したいと考えています。

充実した時間

IWC絵画コンテストは、ローレウスのグローバル・パートナーであるIWCシャフハウゼンと、ローレウス・スポーツ・フォー・グッドプログラムの支援を受けている若者たちとの間に、独自のつながりを作り出しています。

このコンテストは、世界各地でローレウスが支援するプログラムに参加している若者に、創造力を発揮したデザイン活動の機会を提供する取り組みで、2020年には「Time Well Shared（時間の共有）」というテーマで実施されました。

ローレウスの支援プログラムに参加する4〜16歳の子どもたちに、自分にとってのスポーツの価値を表現したアート作品をデザインする機会が与えられます。選考で残った3つの最終候補デザインが発表され、一般投票で最優秀デザインが選ばれます。そのデザインは、翌年のIWCシャフハウゼンのローレウス・スポーツ・フォー・グッド特別仕様ウォッチの裏面に刻印されます。また優勝者には、ローレウス・アカデミーのメンバーまたはアンバサダーと会う権利が与えられるほか、参加者プログラムに5,000ユーロが寄付されます。

2005年以来、IWCはローレウスのグローバル・パートナーとして、スポーツの力で世界中の恵まれない若者の生活を変革するというローレウスのミッションを支援しています。2021年のローレウス・スポーツ・フォー・グッドウォッチは、IWCの15周年特別仕様モデルです。

限定モデルの文字盤には特徴的なローレウス・ブルーが使用されており、その色合いはモデルごとに少しずつ異なっています。このローレウス・ブルーは、希望を象徴しています。各ウォッチには、ローレウスが支援するプログラムに参加している若者がデザインした独自の刻印が施されています。この刻印があるウォッチの販売収益の一部は、スポーツの力を用いて若者たちが暴力、差別、社会的格差を乗り越えるためのローレウス・スポーツ・フォー・グッドプログラムの支援に使われます。

2020年IWC絵画コンテストの優勝者は、コロンビア出身のメリッサ・メヒア・カスティーリャさん（12歳）でした。

ケーススタディ

日本におけるローレウスの活動「プレー・アカデミー、三菱UFJフィナンシャル・グループ他」

新型コロナウイルス感染症の影響により東京2020オリンピック・パラリンピックの開催が延期されましたが、ラグビーワールドカップ2019をはじめとする様々な代表的イベントが開催されたことで、日本は近年、スポーツの世界で中心的な存在となっています。このラグビーワールドカップで優勝を果たした南アフリカ代表チームは、2020年のローレウス・ワールド・スポーツ・アワードで年間最優秀チーム賞に選ばれましたが、日本にも同時にスポットライトが当てられました。日本代表チームの強気なスタイルと、スポーツに対する情熱、そして世界各地のさまざまなコミュニティや文化を一つにする情熱が脚光を浴びました。

しかし、日本でスポーツの力に対する取り組みは、エリートスポーツ以上のもの、特に著しいジェンダーの不平等に苦しむ女の子たちの人生にポジティブな影響を与えるものとなる必要があります。「ジェンダー・ギャップ指数2020」によると、日本は153の国・地域で121位となっており、このジェンダーの不平等は、日本の女性に影響を及ぼしている根本的な社会問題の1つであることを示しています。女の子は男の子と比較して、特に思春期にスポーツをやめてしまう割合が非常に高く、それに伴い同時期にメンタルヘルスと幸福度の問題も起きています。14歳の日本人の男の子は73%が「自分のことが好き」と答えているのに対し、女の子はわずか46%でした。日本の女の子の自信は10歳がピークで、それ以降は低下の一途をたどっています。

このような問題は、日本を代表するアスリートが牽引し、ローレウス・スポーツ・フォー・グッドが支援するプロジェクトの根幹をなしています。2020年に大坂なおみ選手、ローレウス、そしてナイキのパートナーシップによって立ち上げられた「プレー・アカデミー with 大坂なおみ」は、スポーツの力で女の子の活躍の場を広げることを目指しています。このプログラムでは、女の子がスポーツを通じて前向きで楽しい体験をすることで、ポジティブなお手本、ロールモデルになれるようサポートしています。パートナー企業の支援を活かした大坂なおみ選手による取り組みをきっかけとして、現在では、マスターカード、ヨネックス、ボディーアーマー、リーバイスも支援を約束しています。2021年の国際女性デーでは、初年度助成金を受領する日本の3団体が発表されました。また、ローレウスのグローバル・パートナーである三菱UFJフィナンシャル・グループは、日本中の女の子を支援するために多額の資金を投入し、このプロジェクトの主な支援を行っています。日本での成功を受け、プロジェクトの活動はロサンゼルスとハイチに拡大しています。

スポーツはこれまでの私の人生の大きな部分を占めてきました。プレー・アカデミーでの活動を通じて、たくさんの女の子たちがスポーツを通じて楽しむ機会を得ることができ、そこで自信や自尊心が育ち、人生でのリーダーシップスキルを身につけることができることを、誇りに思っています。

大坂なおみ

開発のためのスポーツにより日本の若者の人生を変えたいと考える一流スポーツ選手は、大坂なおみ選手だけではありません。ローレウスのアンバサダーであり元オリンピック選手の為末大氏と有森裕子氏、サッカーの香川真司選手、体操の内村航平選手、元テニス女王の杉山愛氏も、ローレウス・スポーツ・フォー・グッドによる日本での活動に支持を表明しています。こうした一流スポーツ選手たちは、ローレウスおよびパートナー企業とともに、ローレウスと三菱UFJフィナンシャル・グループのパートナーシップに集約される活動目的、すなわち「スポーツの力を通じてさらに明るい未来を築く」ために、一丸となって取り組んでいます。

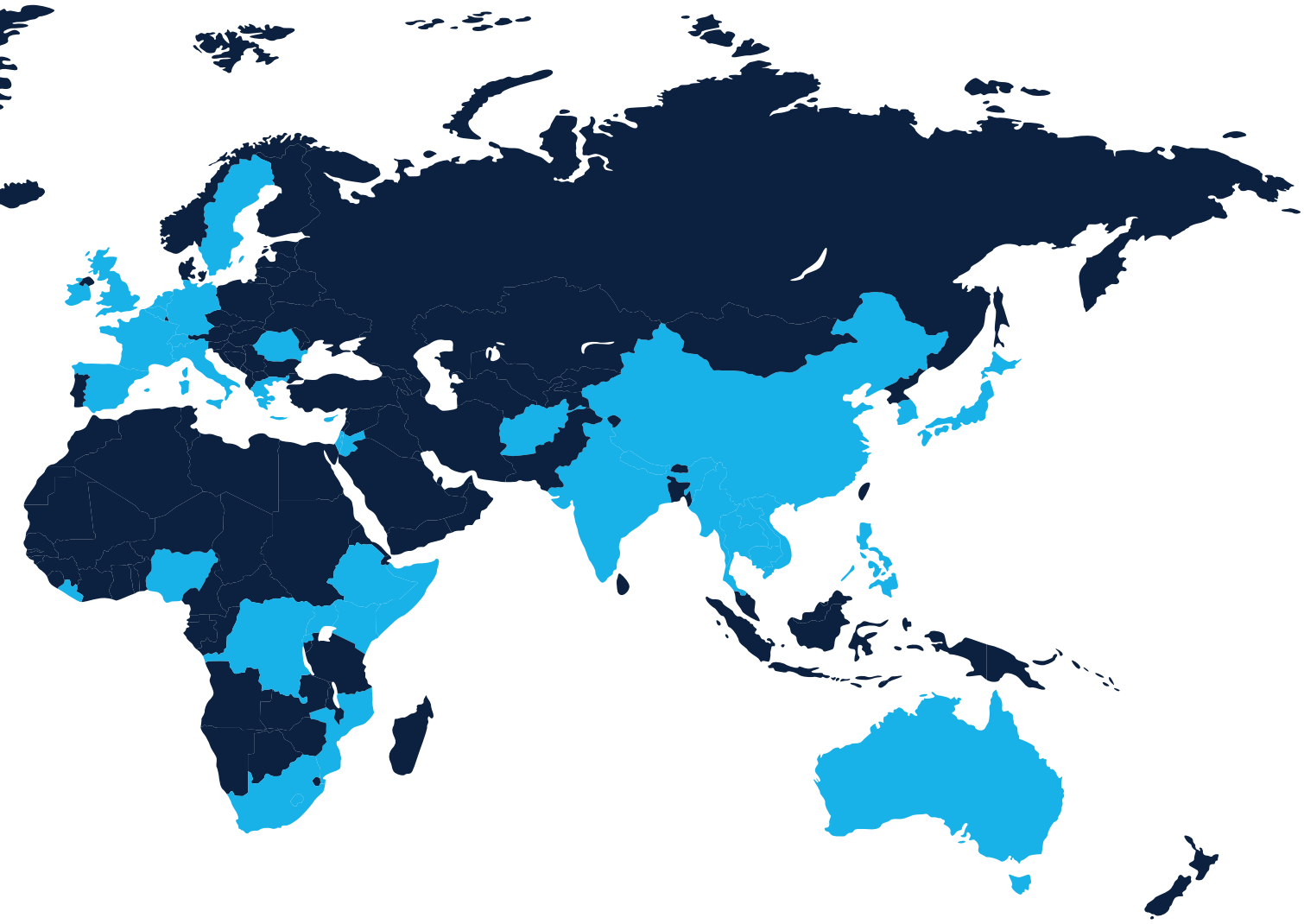
ローレウス・スポーツ・フォー・グッドはその目的を達成するために、スポーツを通じて知的障害や学習障害を抱える若者を支援するプログラムや、クライミングを通じて身体障害を抱える若者に力を与える学業のプログラム、女の子の生活スキルやメンタルヘルス、成績に焦点を当てたプログラムなど、国内のさまざまなプログラムを支援してきました。こうしたプログラムで、女の子や女性がスポーツや自分のコミュニティに参加しリーダーシップを発揮できる平等な機会を増やすことを総合的な目標としています。

2020年の世界における足跡

ローレウス・スポーツ・フォー・グッドは、イギリスに拠点を置くグローバル財団と、アルゼンチン、ドイツ、イタリア、オランダ、南アフリカ、スペイン、スイス、アメリカに拠点を置く各国の財団で構成されています。今回の年次報告書では初めて、ローレウスのすべての国内外の財団が提供・支援しているプログラムと活動を取り上げます。

私たちは、目的を持って提供されるスポーツを用いたプログラムが世界中の若者の向上に与える影響を証明するうえで重要な役割を果たし続けることができ、嬉しく思っています。2020年は、従来行われていた開発のためのスポーツプログラムの多くをバーチャルの場で開催したり、提供する条件の変化に応じて別の方法で調整する必要があったりと、この影響を証明するには難しい年でした。しかし、私たちは51の国・地域で250以上のパートナーとの協働と対話を重ね、スポーツを用いたプログラムに参加することで子どもや若者の生活に前向きな変化が生まれることを伝える方法を見出しました。

2020年は、ピッチやトラック、プール、コートなどが1年の大半にわたり閉鎖されていたため、プログラム参加者の減少が予想されていました。しかし、私たちのプログラムパートナーおよびスタッフの献身的な努力と創造力、そして資金提供者のご支援により、包括的で継続的なプログラム活動を通じて、27万人以上の子どもや若者（性自認が男性52%、性自認が女性47.8%、性自認が男性・女性以外0.2%）に直接支援を行うことができました。トラウマに配慮したコーチ・トレーニング、講師育成プログラム、スポーツ・フォー・グッド・対策基金、イノベーション基金、その他規模を調節可能な取り組みや、幅広いアウトリーチ活動への追加投資を含め、世界中のコミュニティで合計81万人以上の子どもや若者に対して支援を行いました。



ローレウスがプログラムの支援と実施を行った国・地域：

- アフガニスタン
- アルゼンチン
- オーストラリア
- オーストリア
- ベルギー
- ブラジル
- カンボジア
- 中国
- コロンビア
- キプロス
- コンゴ民主共和国
- エチオピア
- フランス
- ドイツ
- ギリシャ
- グレナダ
- 香港特別行政区
- インド
- イスラエル
- イタリア
- 日本
- ジャマイカ
- ヨルダン
- ケニア
- ラオス
- レソト
- リベリア
- メキシコ
- モザンビーク
- ミャンマー
- ネパール
- オランダ
- ニカラグア
- ナイジェリア
- パレスチナ
- フィリピン
- アイルランド
- ルーマニア
- ルワンダ
- ソマリア
- 南アフリカ
- 韓国
- スペイン
- スウェーデン
- スイス
- タイ
- ウガンダ
- イギリス
- アメリカ
- バヌアツ
- ベトナム

世界的な影響

2016年に国連が「持続可能な開発目標（SDGs）」を発表した際、ローレウスは世界各国の政府とともに、2030年までの目標達成を掲げました。

私たちはスポーツの力を用いて、6つの社会的重点分野において特に効果的な取り組みや支援を行ってきました。すなわち、「健康と幸福」、「教育」、「女性・女の子」、「雇用適正能力」、「包摂的社会」、「平和な社会」です。また、これらすべての分野を横断して、環境持続可能性、ジェンダー

平等、セーフガーディング、グッド・ガバナンス、財務の透明性、説明責任の促進と監視を行っています。総計すると、ローレウスは現在、半分以上のSDGsを達成しています。

2020年に私たちは、51の国・地域で250以上のプログラムの支援を行いました。私たちは、270,369人の男の子、女の子、若い男性や女性、そして自分の性別をその他の性別と定義する子どもや若者に、直接的な影響を与えました。どの性別の子どもたちも、長期的に支援プログラムの1つに参加し、活動そのものを体験するだけでなく、目的を持って実施された開発のためのスポーツプログラムに参加した結果生まれた、生活での変化を実感しています。

私たちは、この直接的な影響を、重要業績評価指標（KPI）の枠組みの中で捉えようとしています。こうしたプログラムは、私たちが支援するプログラムの短期的、中期的、長期的な成果を考慮して開発されています。 以降のページで、2020年に実施されたプログラムの成果をいくつかご紹介します。指標は、1つの社会的重点分野に基づくものもあれば、全てに基づくものもあります。

影響に関するこの報告以外にも、ロックダウン期間中の団体を支援するために、同分野の他団体と協力して「スポーツ・フォー・グッド対策基金」を立ち上げました。この特別基金により、世界17の国・地域の90団体への戦略的・財政的支援を行いました。10ページに、危機的状況にある子どもや若者への追加支援を可能にしたこの取り組みの詳細について掲載しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

ローレウスの社会的重点分野：

健康と幸福
心の健康の増進と健康的な行動変化の推奨

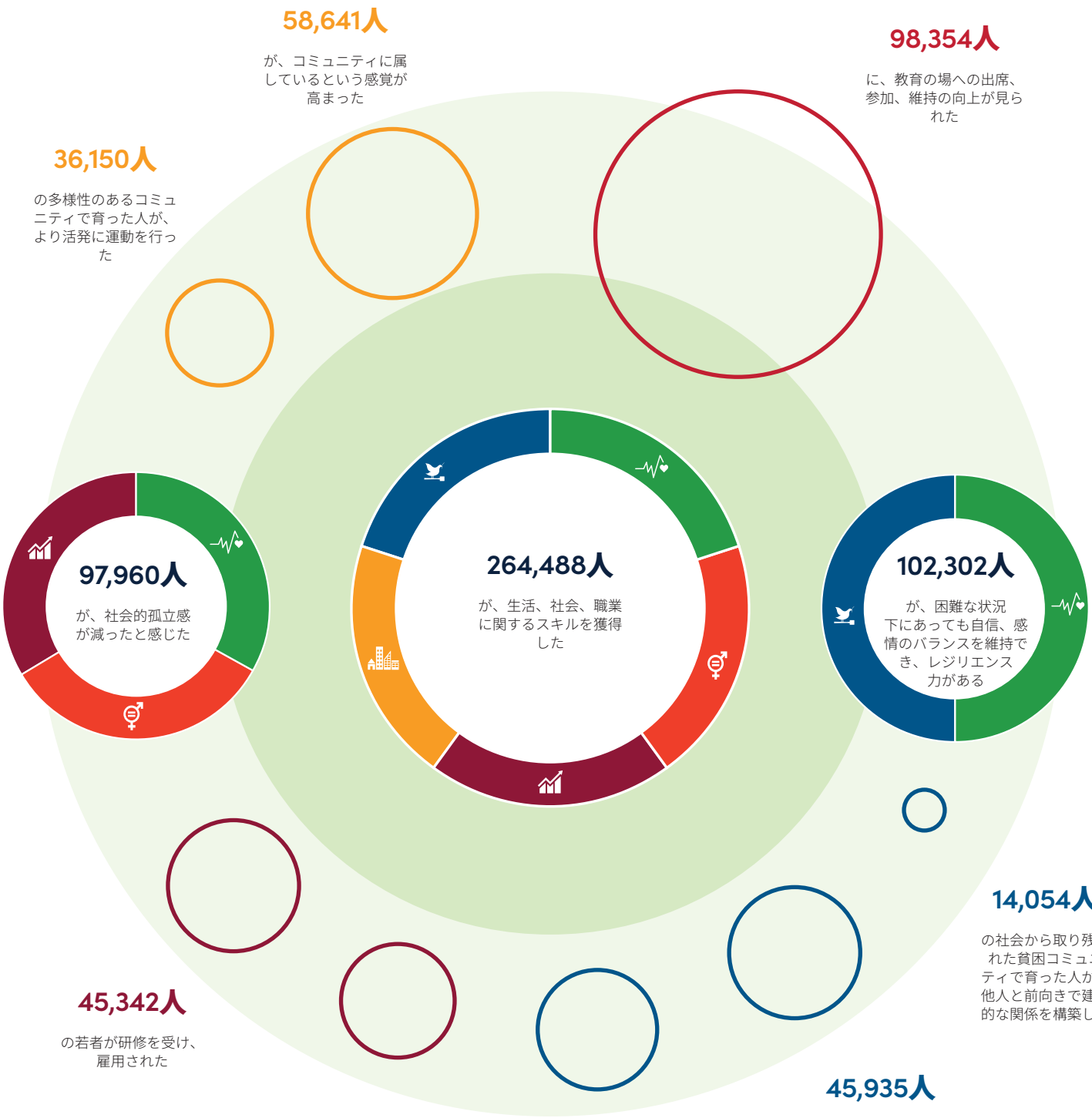
教育
教育の機会と修了の促進

女の子・女性
平等、安全の促進、権利の拡大

雇用適正能力
雇用適正能力を開発し、雇用経路を創出

包摂的社会
民族、文化、身体的な違いを受け入れるコミュニティの創造

平和な社会
対立の解消、コミュニティでの平和構築の推進、安全な空間の創造


58,641人
が、コミュニティに属しているという感覚が高まった
98,354人
に、教育の場への出席、参加、維持の向上が見られた
36,150人
の多様性のあるコミュニティで育った人が、より活発に運動を行った
97,960人
が、社会的孤立感が減ったと感じた
264,488人
が、生活、社会、職業に関するスキルを獲得した
102,302人
が、困難な状況下にあっても自信、感情のバランスを維持でき、レジリエンス力がある
14,054人
の社会から取り残された貧困コミュニティで育った人が、他人と前向きで建設的な関係を構築した
45,342人
の若者が研修を受け、雇用された
39,772人
が、職業体験やインターンシップの機会を得た
41,280人
が、コミュニティにおける多様な意見や価値観を受け入れ尊重した
45,935人
の社会から取り残された貧困コミュニティで育った人が、異なる背景を持つ人々と信頼しあえるようになった

ローレウスの取り組み

私たちのビジョンは、スポーツの力で、暴力や差別、社会的格差をなくし、スポーツが世界を変えられることを証明することです。

支援

恵まれないコミュニティの子どもや若者の社会的および情緒的な発達を促進し、その人々の生活における暴力、紛争、差別の影響を低減するとともに、健康的な行動変容を促し教育の成果と雇用適正能力を高める、開発のためのスポーツプログラムを支援しています。

強化

インパクト評価、調査、知識の共有、ネットワークの構築を通じて、開発のためのスポーツ分野を強化します。

焦点

子どもや若者が直面している深刻な社会問題に焦点を当て、国連の持続可能な開発目標を達成するための手段としてのスポーツの利用を促進し、効果的な支援およびコミュニケーションを通じて、開発のためのスポーツ分野に関するリソース獲得を拡大します。

変化は様々なレベルで介入することで生まれる、ということを私たちは認識しており、組織や協力体制を強化するボトムアップ型の活動と、政府や国際開発機関、その他の社会を形成する重要な意思決定者に影響を与え協力するトップダウン型の活動の両方を行っています。また、こうしたレベルの間で、知識の仲介、ネットワーキング、セクター構築の管理・促進を目指しています。

私たちは、子どもや若者が人生で困難に直面したときに、スポーツは強力で費用対効果の高い手段であることを証明し続けています。また、開発のためのスポーツのコミュニティの最前線で20年間活動を行ってきた私たちは、専門とする分野において理解を深め、それに伴う信頼性を高め続けてきました。

セーフガーディング

ローレウスは、2020年に「スポーツにおける子どものための国際保護措置（セーフガーディング）」に参加署名し、子どもたちにとってもっと安全なスポーツと開発のためのスポーツを目指して取り組んでいます。この取り組みを支援するにあたり、私たちは独自のネットワークを通じてこのセーフガーディングを推進・提唱し、ローレウスの活動に組み込んでいます。

6月から8月にかけて、私たちはセーフガーディング方針の見直しを行い、この取り組みを明記しました。今回の見直しでは、本方針の対象範囲を、子どもだけでなく、若者や恵まれない大人を含むよう拡大し、私たちが支援・実施しているプログラムや活動の範囲をより一層反映できるようにしました。また、コロナ禍で活動内容を調整するうえでパートナーへの支援を充実させるために、ユニセフと共同でオンライン上でのセーフガーディングに関する項を作成・追加しました。 私たちのセーフガーディング方針はこちらでご覧いただけます。**laureus.com/safeguarding**

INTERNATIONAL SAFEGUARDS
FOR CHILDREN IN SPORT

2020年には、3つのパートナーから4件のセーフガーディング違反行為の報告を受けました。この内容はすべて理事会に報告され、被害者とされる人たちのプラスと安全を考えて活動し、複雑な状況に対処したことについて、理事会はパートナーへ感謝の意を表しました。

健康と幸福

助けを求める子どもや若者にレジリエンス力を与え、間違っていたり根拠のない認識をなくすなど、子どもや若者のメンタルヘルス問題の予防と改善に取り組みます。

強力な社会ネットワーク、自信、レジリエンス力は、心身共に健康な人生を送るための重要な要素です。人は、こうした要素があってこそ困難や危機から立ち直ることができます。2020年に、社会的孤立感が減ったと報告した97,960人の子どもや若者のうち、46,084人が、前向きで自立した生活を送るためのメンタルヘルスや幸福感の向上という観点から、孤立感の軽減を経験しました。さらに、56,183人が自信がつき、感情のバランスが取れ、困難に直面しても立ち直るレジリエンス力を感じていると報告しています。また、メンタルヘルスや幸福感に特化したプログラムに参加した22,053人の子どもや若者が、対処法を身につけて良い人生の選択ができるようになったと報告しています。

性および生殖の健康に関する知識を向上させ、前向き。な行動変化を実現できるよう支援します

2020年、性の健康に関する知識を広げるプログラムに参加した44,645人の子どもや若者が、自分たちの身体や性、生殖の健康の権利について学ぶことができたと答えました。さらに、45,487人が、自分たちの人生についてより多くの情報を得た上で決断できるようになったと感じていると報告されています。

97,960人

（合計）の子どもや若者が社会的孤立感が減ったと報告した

56,183人

が自信がつき、感情のバランスが取れ、困難に直面してもレジリエンス力を感じていると報告した

教育

正当な権利を奪われた恵まれない男の子、女の子、若い男性や女性が、学校に通い、前向きに取り組み、教育を修了できるよう支援します。

スポーツは、一般教育の機会を奪われている多くの子どもや若者の参加を促し、やる気を引き出すことができます。スポーツを用いた学習プログラムにより、正規の教育を受けることができない、あるいは続けたくないと考える子どもに対し、もっと柔軟な、あるいは非公式な環境で学ぶだけでなく、もう一度正規の教育を受けるための代替手段を提供します。2020年には、推計98,354人の子どもや若者が学校に通い、積極的に学業に参加して修了できるよう特別支援が提供されました。

教育や職業訓練におけるジェンダー差別をなくし、女の子や女性が平等にあらゆるレベルの教育を受けられるよう支援します。

ローレウス・スポーツ・フォー・グッドは、教育におけるジェンダー差別をなくすべく尽力しています。2020年には、推計56,619人の女の子へ、学校への出席、学習の参加・継続を改善できるよう支援を行いました。これは、出席や学習参加の改善が報告された子どもや若者全体の48%に相当します。

98,354人

の子どもや若者が学校に通い、積極的に学業に参加して修了できるよう特別支援が提供された

56,619人

（推計）の女の子が2020年にローレウスの支援を受けた

女の子・女性

ジェンダー平等と女性の社会的地位の向上は、ローレウスが資金提供しているすべてのプログラムを通じた優先事項であり、2020年には女の子と若い女性の参加率は47.8%に達しています。これは、アメリカの8〜18歳頃の児童・生徒の一般的なスポーツ参加率よりも約25%も高い割合です。

24,422人

の子どもや若者が、暴力のない生活を送る権利について認識した

10,624人

の女の子や若い女性が、自分たちの人生についてより多くの情報を得た上で決断できるようになったと報告した

女性と女の子に対する暴力の撲滅

2020年には、暴力のない生活を送るためのプログラムが多数、継続して評価されました。 ローレウスが資金提供している、ジェンダーによる暴力に対処するためのプログラムに参加することで、24,422人の子どもや若者が、暴力のない生活を送る権利について認識しました。 また、10,337人の子どもや若者がさらに一歩進んで、女の子や女性に対する暴力に対して行動を起こしたと報告しています。 さらに、10,624人の女の子や若い女性が、自分たちの人生についてより多くの情報を得た上で決断できるようになったと報告しています。

女の子や若い女性の平等な参加とリーダーシップ

ローレウス・スポーツ・フォー・グッドは、女性や女の子が社会においてリーダーシップを発揮し平等に参加することは、プログラムの参加者の男女比を平等にすることや、知識やスキルを身につけること以上に意味があることであると理解しています。また、意思決定の機会均等と、コミュニティにおける対等な立場も重要です。2020年には、14,792人の女の子や若い女性が、自分の権利を認識し、社会の中で経済的、政治的、社会的に平等の役割が存在すると感じられるようになりました。また、13,472人の女の子や若い女性が、コミュニティのリーダー育成を目的としたプログラムに積極的に参加しました。

雇用適正能力

子どもや若者が、雇用の機会を得るために必要なソフトスキルや技術スキルを獲得します。

53,945人

の若者が関連するソフトスキルや技術スキルを身につけた

39,772人

の子どもや若者が職場体験やインターンシップに参加した

私たちのプログラムの多くで、若者に雇用市場で必要とされるソフトスキルや技術スキルを提供するツールとして、スポーツを用いています。今年は、規制やロックダウンによって、世界中の何百万人もの若者が、初めての仕事を見つける、あるいはインターンシップや実習を通じて仕事の経験を積む、といった夢を中断せざるを得ませんでした。ローレウスが支援するプログラムを通じて、53,945人の若者が雇用の機会を得るために必要なソフトスキルや技術スキルを身につけ、その内の多くが一般的な生活スキルや社会スキルを身につけた250,289人に含まれています。。

職場体験やインターンシップ、メンターシップに参加した子どもや若者

新型コロナウイルス感染症の流行という逆境にもかかわらず、私たちの雇用経路創出プログラムでは、39,772人の子どもや若者の職場体験やインターンシップの参加を支援しました。

研修を受け、雇用された子どもや若者

45,342人の子どもや若者が研修

や雇用に向けて動き出し、雇用適正能力に焦点を当てた開発のためのスポーツプログラムに参加しました。

包摂的社会

年齢、性別、障害、人種、民族、出自、宗教、経済状況、その他の状況に関わらず、すべての人の社会的、経済的、政治的包摂に貢献します。

スポーツプログラムが人を団結させるよう設計されていれば、通常は交流のない人々やコミュニティの架け橋となり団結させる、独自のプラットフォームになります。スポーツプログラムは、目的を持って計画することで公平な競争の場を生み出し、すべての人がアクセスでき、誰もが安全な場所でプレーや参加できるチャンスを与える機会となります。

2020年、包摂性に焦点を当てたローレウスのプログラムを82,231人の子どもや若者に提供しました。このプログラムの目的は、すべての人がアクセスできるだけではなく、普段取り残されている人たちを参加させ、声を上げ、積極的に参加し、自分の生活に関わる決定に影響を与えられるようにすることです。今年、58,641人の子どもや若者が、コミュニティへの帰属意識が向上したと感じています。

82,231人

の子どもや若者が参加した

58,641人

の子どもや若者が、コミュニティへの帰属意識が向上したと感じた

平和な社会

社会から取り残された恵まれない子どもや若者の暴力的犯罪を犯すリスクを大幅に低減します。

49,916人

の子どもや若者が、他者と前向きで暴力のない建設的な人間関係を構築した

45,935人

の子どもや若者が、コミュニティ内の他者に対する信頼感が高まったと報告した

スポーツやメンタリングのプログラムは、暴力や犯罪、薬物使用から離れ、ライフスキルを身につけ、人生における困難を克服する方法を学ぶことのできる、貴重なツールです。2020年には、プログラムの参加を通じて、49,916人の子どもや若者が前向きで暴力のない建設的な人間関係を築き、47,936人が暴力犯罪を犯すというリスクが減りました。

紛争や暴力が起こっている、または起こっていたコミュニテ。ィで、平和と非暴力の文化を促進します

紛争地域や紛争後の地域で生活している子どもや若者には、敵対心や対立を背景とする人間関係のイメージが刻み込まれています。そして、民族や言語、宗教の違いで「自分たち」と「他の人」の線引きをする方法を学んでしまいます。平和構築に焦点を当てたスポーツプログラムは、共通の基盤を見つけて経験を共有し、建設的な対話を行うことを目的としています。2020年に、49,183人の子どもや若者が平和と非暴力の文化を促進するプログラムに参加しました。また、45,935人の子どもや若者が、コミュニティ内の他者に対する信頼感が高まったと報告しました。

ケーススタディ

ローレウス・オランダ「スポーツを通じて犯罪を撲滅」

ローレウス・スポーツ・フォー・グッドはオランダで、世界の犯罪を減らすためにスポーツを用いた最大規模のプログラム「Alleen jij bepaalt wie je bent」（AJB）に参加しています。

AJBは、危険な状況にある若者の非行を防ぐための活動です。このプログラムはオランダ法務省と協働して提供されており、犯罪率が高く社会的格差に苦しむ地域に住む12〜18歳の青少年の他、特別支援学校に通っている、または最低水準の普通教育しか受けられない青少年を対象としています。

参加者は2年間、週6〜8時間プログラムに参加します。私たちは複数の独立監査法人と共に、このプログラムへの社会的投資収益率の把握を行いましたが、その結果は驚くべきものでした。オランダの青少年研究所では、このプログラムへの投資1ユーロにつき19〜33ユーロの社会的投資収益率が出るとしています。

若者は所定のスポーツクラブで、余暇活動に参加するよう奨励されます。スポーツクラブでプロコーチのサポートのもと、AJB特別チームでサッカーや野球、バスケットボールのトレーニングに参加します。こうしたコーチは、ロールモデルとしての役割を果たす能力や、青少年の健全な行動変化をサポートする能力に基づき選考されます。トレーニングを通じて、参加者の行動における問題に対して特に注意が払われます。

このプログラムは、コーチと参加者の良好な人間関係の構築と、安全な教育環境の創出を目的としています。コーチは望ましい行動と望ましくない行動を伝え、若者のお手本として振る舞います。AJBの参加者は、前向きに、敬意を持って扱われ、スポーツクラブで向社会的活動に参加する意欲を持つようになります。コーチは必要に応じて参加者に個別指導を実施し、参加者の行動に懸念があれば学校と話し合います。

学校とスポーツクラブの間の調整は、AJBの専任スタッフが行います。AJBは現在、オランダの一部の自治体のほか、アルバ、キュラソー、ボネール、シント・マールテンでも実施され、1,100人以上の若者がプログラムに参加しています。

Everyone Wins（誰もが勝者に）

私は、最初はオールブラックスのキャプテン、そして最近ではローレウス・ワールド・スポーツ・アカデミーのチェアマンという、スポーツ界でまったく別の2つの役割で世界中を旅してきました。ラグビーのニュージーランド代表だったとき、優勝することは私たちの使命であるとともに、存在意義でもありました。現在は、スポーツに別の価値を見出しているローレウスに参加しています。

ローレウス・アカデミーのチェアマンとして、私は並外れた人材で構成された新たなチームを率いる権利を与えられています。 並外れた、とは、スポーツキャリアにおける類まれな成果だけでなく、引退後の活動内容についても言えることです。 私たちはローレウスとの活動の中で、世界各地のローレウス・スポーツ・フォー・グッドが支援するさまざまなプログラムを訪問し、スポーツを通じて恵まれないコミュニティの子どもや若者がスキルを身につけ、マイナスの影響を回避し、希望を見出す姿を目の当たりにしてきました。こうした経験をするたび私の頭に浮かぶのは、ローレウス初代賛同者の「スポーツには世界を変える力がある」という言葉です。

ローレウスは「Everyone Wins（誰もが勝者に）」という新キャンペーンを立ち上げ、その変化を新たに作り出しています。その前提は、どんな競技にも勝者と敗者がいる、というシンプルなもので、私たちの活動の根幹をなしています。しかし、若者がスポーツの力を利用して暴力、差別、社会的格差を克服するたびに、世界はより良いものになっていきます。子どもたちがこうした敵に勝つことで、誰もが勝者になれるのです。

これは、勝ち負けを経験したことのある私やアカデミー・メンバーたちの心に響くすばらしい明快なメッセージです。しかし、もっと重要なのは、このメッセージを試合や競技ではなく、人生に当てはめるとどうなるか、ということです。 私たち全員が、世界中でもっと多くの子どもが人生で「勝利する」ための機会を生み出すローレウスの役割を、深く理解しています。 だからこそ、私たちはボランティアや支援に取り組んでいるのです。

ケーススタディ

」ローレウスUSA「リード(L.E.A.D)する若いヒーローたち

ローレウスUSAは、若者の健康、教育、社会および精神的幸福感を向上させ、子どもや若者が人生で成功するために必要なツールを提供することを目的に活動しています。

アメリカにおけるプログラムでは、個々の団体への助成金の提供、対象を絞ったコーチ研修、専門家の育成、コミュニティに根ざしたプロジェクトへの支援など、さまざまな介入を行っています。アメリカで支援を受けている若者のうち、50%が女性、80%がマイノリティ、90%が低所得世帯の者です。さらに、私たちが支援しているコミュニティは、中途退学率や貧困率が高いケースが多くみられます。このようなコミュニティは新型コロナウイルス感染症の影響を最も強く受けており、現在進行形で人種的不公平の影響を被っています。

先行き不透明な1年であったにもかかわらず、アメリカにおける支援プログラムに参加した若者のうち、85%以上が学業への参加率に改善が見られ、86%が社会・情緒的健康状態が改善し、88%がコミュニティの結束と包摂性を支持する気持ちが高まったと報告しました。

19歳のデヴォンは、アトランタ西部のブッカー・T・ワシントン高校を卒業したばかりです。彼は、犯罪や貧困、人種差別を克服するために、野球を通じて危険な状況にある若者を支援している非営利団体L.E.A.D.に参加しています。3年間チームメンバーとして活動し、2020年は最終学年であり高校野球最後の年でした。強くなって大学からスカウトされることを望んでいましたが、新型コロナウイルス感染症の流行により、希望が絶たれてしまったと感じていました。また、野球チームの活動中止の知らせを聞く数週間前には、家族と共にアパートから追い出されてしまいました。

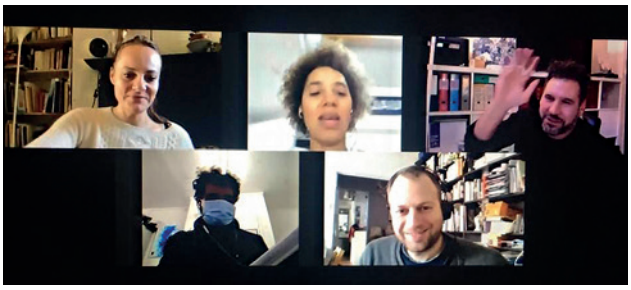
L.E.A.D.は緊急資金と予備費を使い、彼の家族や同じような境遇の人たちを支援し、アトランタの黒人コミュニティに最悪の打撃を与えた今回の世界的なコロナ危機を乗り越えられるよう支援しました。

現在の状況はとても過酷ですが、私には助けてくれる人たちがいます。私には、自分の受けられた支援がまだ届かないたティーンエイジャーを支えるためのプラットフォームがあります。私のような状況にあるたくさんの人には、何の助けもないのです。

デヴォンは現在、自分自身と家族の将来を良いものにするため、課外活動に熱心に取り組み、奨学金を申請しています。彼の夢は、家族や子孫のため裕福になることです。彼は、両親やきょうだいが事業を始めるのを手伝うだけでなく、自分が学んだ起業家教育や人脈作り、投資などについて、家族全員に教えてあげたいと考えています。

都市から世界を変える

ローレウス・スポーツ・フォー・グッドは、主要都市でスポーツを通じ、その土地に応じた総合的な社会の影響を生み出せるよう活動を主導してきました。 スポーツ・フォー・グッド・シティーズ・プログラム（別名モデルシティ）は、2014年にアメリカのニューオーリンズで始まり、その後アトランタ、ロンドン、ニューヨーク、シカゴへと拡大しました。2020年には、パリ、ニューデリー、香港特別行政区へと拡大しました。このアプローチの根幹にある概念は、各団体を一つにまとめ、共通の目的に向かって活動することで、それぞれの活動を合わせたものよりも大きな結果を生み出せるというというものです。



団体は、互いに学び、規模と範囲を形成しながら、長期的な解決策を見出します。影響力が高まり、より多くのコミュニティが変革を実現するスポーツの力の恩恵を受けています。しかし、変革の鍵となるのは、現地の関係者自身が一丸となり、実現したい変革を明らかにし、その実現のためのプロセスを明示することです。

新型コロナウイルス感染症の流行による活動制限が始まった際、パートナーの多くは大きな財政問題に直面していたことから、ローレウスUSAは20万ドルの資金をスポーツ・フォー・グッド・シティーズの4都市で活動している既存パートナーの支援のために拠出しました。アトランタのウェストサイドでステイホームしている子どもたちにスポーツ用品を届けたり、シカゴでエグゼクティブ・ディレクター向けの実践共同体を立ち上げコロナ対策管理の方法を指導したりと、さまざまな介入を行いました。公平性を実現するためのローレウスの取り組みは、人種間の不平等を理解し対応する方法を学び、身につけるためのリソースをスポーツ・フォー・グッド・シティーズの各都市に提供することで、2020年も継続して行われました。

モデルシティ・ロンドンでは、コロナ禍の活動制限により、多くのプロジェクトが何度も活動内容の変更を迫られました。ローレウスの技術および財政の支援を通じて、こうした団体は互いを活用し、レジリエンス力と回復力を構築できるようになり、何千人もの若者に前向きな影響をもたらしました。モデルシティ・ロンドンの評価では、2020年の主要な業績に焦点が当てられました。例えば、人々がもっと活動的になった、自身について、自分のコミュニティについてもっと良いと感じるようになった、変革に影響を与えたり教育や雇用の機会を増やしたりする発言力が強くなったと感じるようになった、もっと幸福で健康的でレジリエンス力が強くなったと感じるようになった、などです。

新しい都市

国際開発分野における多くの団体がプログラムの活動を停止させる中、ローレウスは、成果が出ているスポーツ・フォー・グッド・シティーズ・プログラムを発展させ、パリ、香港特別行政区、ニューデリーに拡大することを決定しました。 かつてないほど支援のニーズが高まっている中で、私たちの対処方法の1つは、これまでで最も影響力が大きく持続可能なプログラムモデルを加速させることでした。私たちは、社会の発展のためにスポーツの力を用いるというローレウスの取り組みを共有し、多数の地域団体やスポーツクラブを動かしました。 2020年末までに、パリでは社会的包摂とジェンダー平等の支援、香港特別行政区ではメンタルヘルスと幸福感の向上の支援、ニューデリーではジェンダー平等の支援を行いました。

ケーススタディ

ローレウス・アルゼンチン「ラテンアメリカで変革をもたらす

ローレウス・アルゼンチンは2003年に設立されました。私たちが支援を行っている6つのプログラムは、ブエノスアイレス、マル・デル・プラタ、コロネル・スアレス、モレノで提供されています。

歴史的に、メルセデス・ベンツはアルゼンチンのプログラムへの主支援者であり、2020年を通してその支援は継続されました。また、今年はローレウスとナイキが共同開発した「Entrenadores del Cambio」プログラムが実施され、パートナーシップが強化されました。このプログラムでは体育教師やコーチの能力開発が提供されています。2020年には、ジェンダー平等、コロナ禍における活動計画、包摂性に焦点が当てられました。

ローレウス・アルゼンチンのチェアマンであり、アカデミー・メンバーでもあるウーゴ・ポルタ氏がホストとして、スポーツの力で世界を変える方法について話し合うインスタグラムのライブセッションが年間を通して配信されました。このセッションには、アレハンドラ・ガルシア・フロッド選手、マティアス・マルティン選手、イバン・デ・ピネダ選手、トマス・クベジ選手といったアンバサダーたちが積極的に参加しました。

新型コロナウイルス感染症の流行が社会に与えた影響は大きく、スポーツやスポーツを用いたプログラムの提供も広く制限されたものの、ローレウスは組織的手順、広報戦略、開発のためのスポーツの方法論などの課題について他団体と協働する機会を得ることができました。

ローレウスが世界中の課題に積極的に取り組んでいるのと同様に、アルゼンチンでは活動を国内の新たな都市や地域にも拡大することを検討しており、同時に、焦点を当てる社会的重点分野の数を、女の子・女性、包摂的社会、平和な社会の3つに絞って取り組んでいます。

“私にはプロボクシング選手になれる才能と可能性があることはわかっていました。けれども、BBCでコーチのサンティアゴ先生が、コーチングに対する情熱を教えてくれました。彼は、自分ができることは何でも人に与えたい、という気持ちに火をつけてくれたのです。

パラグアイ生まれのエリサ・オルテガ（20歳）は、2016年半ばからバラカス・ボックス・クラブ（BBC）に参加しています。 コロナ禍の中、彼女は家庭内暴力により家を出ざるを得ませんでした。彼女には収入がありませんでしたが、BBCの他の参加者たちからは共感と連帯感をもって迎えられました。特に、2010年からBBCに参加しているミゲル・チラベール（24歳）は、ブエノスアイレスのコミュニティ近くにある公共のペレイラ・イラオラ公園で、ボクシングのクラスを共同で開講するという事業提案の一環として、彼女に自分の貯金の一部を提供したのです。

ミゲルとエリサの友情はBBCから始まりました。2人は、信頼、共感、連帯感、そしてスポーツへの情熱が、最高の結果につながるという考えに賛成でした。 BBCのコーチであるディエゴの指導のもと、2人は新たなボクシングクラスの活動内容とその広報のための計画を立てました。2人は新しい取り組みへの帰属意識を高めるため、最初の月収をクラスの参加者全員のTシャツに投資することにしました。また、ボクシングクラスが好評を博したため、クラスを子どもと大人のグループに分けて、セッション数を増やすことにしました。

ミゲルは初期投資を回収し、エリサは自立できるようになりました。BBCで学んだ価値観やスキル、育まれた友情は、人生を変えられるものであることが証明されたのです。

各スポーツの参加者

ローレウス・ファミリーはすべてのスポーツを歓迎します。スポーツやその他の身体活動はどんなものであっても、持続的に子どもや若者の興味を引くことができるならば、社会に影響をもたらすために利用することができます。

私たちが気をつけなければならないのは、スポーツを用いたプログラムを提供・支援する際に、社会的影響についての思い込みをしないことです。長年にわたる私たちの研究では、社会目的に合わせたプログラムが提供されたときに、最大限持続可能で大きな影響がもたらされることが明らかになっています。さらに、家庭や学校など、子どもや若者の人生における重要な関係者と協働してプログラムを運営し、メンタリングやトレーニングなどの介入で補完することで、その効果は一層大きくなります。

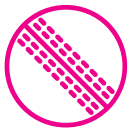
これは、スポーツや開発のためのスポーツへの女の子の参加率にも表れています。統計では、女の子が思春期を迎えると、スポーツ参加率が大幅に低下することが示されています。この傾向に対処するための重要な要素の1つに、スポーツの提供方法を変えることが挙げられます。「女の子が好きなスポーツ」を選ぶのではなく、女の子や若い女性にとって刺激的で、自分に関連しており、ニーズに対応した方法でスポーツを提供することが重要なのです。

そのため、私たちのパートナーやプログラムでは、スポーツを用いた複雑な社会プログラムが多く提供されています。スケート靴を履いたり、ボールを投げたりするのは、ただの始まりに過ぎません。スポーツの力は、それをどのように利用して活かすかで決まるのです。

通常、ヨガやサーフィンのような個人スポーツはメンタルヘルスや幸福感を向上させるプログラムに用いられ、チームスポーツはライフスキルや社会的スキルを身に付けるためのプログラムに多く用いられます。しかしそれ以外の点では、あるスポーツが他のスポーツよりも優れていることを裏付けるような証拠も、あるスポーツだけを用いることが複数のスポーツを用いるよりも影響力が大きくなるという証拠もありません。結局は、何を達成したいのか、それに応じてどのようにカリキュラムを開発・提供するか次第なのです。

97,088
サッカー

31,086
バスケットボール



9,943
クリケット

スポーツ	2019年の参加者	2020年の参加者
マルチスポーツ	157,135	143,632
サッカー	117,605	97,088
ボクシング・格闘技	17,526	51,624
ダンス	21,208	45,060
バスケットボール	33,296	31,086
陸上	18,334	25,943
ラグビー	31,005	25,380
ネットボール	13,705	23,733
水泳	3,665	10,859
クリケット	11,428	9,943
スケートボード	5,801	6,661
バレーボール	4,433	4,924
サーフィン	2,061	4,741

研究と学習コミュニティ

開発のためのスポーツや国際開発に関して経験豊富な実務家や各分野の専門家による6つのラーニング・コミュニティでは、異なる地域や状況であっても同じ分野で活動するローレウスの国際的なプログラム・パートナーに対して、社会的重点分野ごとに1つのバーチャル・プラットフォームを提供しています。このコミュニティの目的は、パートナーが共にモニタリング・評価・学習（Monitoring, Evaluation and Learning - MEL）について学び、共有し、能力を高めることです。パートナー団体のスタッフが志を同じくする専門家と協力して、評価計画の方法、データの収集・分析・共有方法を検討し、開発のためのスポーツの影響を生み出し、影響を証明するために知識を共有しベストプラクティスを育む、という共通の目的に向け、活動できる支援の場を提供しています。

研究における革新

アリアンツが資金提供している現在進行中の研究「スポーツを通じた能力の向上」で、開発のためのスポーツプログラムが障害のある若者の生活に与える影響を示した証拠がますます多く見出されました。

この研究では、モスト・シグニフィカント・チェンジ手法と参加型ビデオ手法を組み合わせた革新的な二重参加型の評価手法を試し、障害者に焦点を当てた開発のためのスポーツを実施している、ローレウスが支援する3つのプログラムに参加した障害を抱える若者を対象としました。対象になったプログラムは、ジャマイカのDeafkidz Internationalとジャマイカ聴覚障害者協会、タイのRight to Play、エチオピアのCheshire Foundation Action for Inclusionです。

研究の間、若者には、最も重大な変化について語ることで自分の実体験を伝えるという機会が与えられました。こうした話では、ジャマイカのいじめやジェンダーに基づく暴力の克服、エチオピアの障害のある若者と障害のない若者のスポーツを通じた交流、タイの知的・身体障害のあるミャンマー人移民の若者の権利向上などの成果が紹介されました。報告書はローレウスのウェブサイトでご覧いただけます。

サーフセラピーの効果

また2020年には、Comic Relief USとのパートナーシップのもと、Waves for ChangeとThe New Schoolの協力を得て、対象を絞った開発のためのスポーツの活動、特にサーフセラピーに参加することで得られる身体的・精神的なメリット（生物・心理・社会的）について、この手法は子どもたちが慢性的な逆境やトラウマに対処する一助となり、サーフセラピーを受けた子どもたちは自分の感情をうまく認識・制御できるようになるかを検証する研究を行いました。 報告書の全文はWaves for Changeからご覧いただけます。

ケーススタディ

イタリアにおける16年間の協力関係

ローレウス・スポーツ・フォー・グッドは2005年にイタリアで国内財団を創設し、当初はミラノ、ローマ、ナポリの恵まれない郊外で活動を行っていました。その後、活動はトリノ、ジェノヴァ、カターニアにも拡大されました。本財団の目的は、困難な状況にある地域の子どもたちがライフスキルや自信、レジリエンス力を身につけ、社会的な結束力を高めることです。

ローレウス・イタリアは、プロジェクトに携わるさまざまな専門家を採用し協力を受けています。専門家は長年にわたり、対象都市で最もリスクの高い地域の子どもたちに参加してもらうための方法を開発してきました。イタリアでの私たちの活動は、伝説的なロードレーサーのジャコモ・アゴスティーニ氏や、元スキー選手のアルベルト・トンバ氏ら複数のアカデミー・メンバー、さらにベアトリーチェ・ヴィオ選手やアリアナ・フォンタナ選手などのアンバサダーによって支持されています。

危険な状況にある子どもたちの進路を変えるには、支援する家族だけでなく、学校、社会福祉課、非営利団体、教会など第三セクターのさまざまな組織・機関や、さまざまなスポーツのクラブや協会による積極的な関与が必要です。

ローレウスは、社会的包摂、ジェンダー平等、教育、心身の健康、安全な空間、積極的な市民性などに取り組むスポーツ関連の専門的な介入活動を通じて、こうした関係者を招集し調整する強力なパイプ役を果たしています。多くの関係者を動員することで、開発のためのスポーツは個別のスポーツカテゴリーの中だけで発展するのではなく、もっと幅広い教育目的を達成するためのツールとなります。

2005年以降、私たちは約100の団体と協働し、20の異なるスポーツにおいて700人のコーチや教育者、教師に研修を提供し、共に活動してきました。

国際開発は、アフリカのコミュニティから子どもを育てるには村が必要であることを学びました。イタリアにおける私たちのプログラムは、これが真実であることを示す良い例です。

マリア・フランチェスカとナオミ）（12歳）、スポーツ・フォー・グッド（ナポリ

マリア・フランチェスカとナオミは、ローレウスが長年にわたって支援しているナポリの若いアスリートたちです。2人は「No Limits」プログラムに参加していたため、コロナ禍の中でもトレーニングを続けることができた数少ないアスリートです。ロックダウンの際には、世界中の多くの子どもたちと同様に、2人も大きな困難に直面しました。しかし、地元の学校と協力してローレウスが支援する活動に参加したことで、2人はレジリエンス力と自信を身につけ、将来に対して明確で大きな期待を持って困難な時期に立ち向かうことができました。

グリーン・チャレンジ

2020年2月にベルリンで開催されたローレウス・ワールド・スポーツ・アワードでは、ローレウス・スポーツ・フォー・グッドのチェアマンであるエドウィン・モーゼスが、国連の「スポーツを通じた気候行動枠組み」を実施・推進するローレウスのコミットメントに署名しました。

私たちは、スポーツや開発のためのスポーツが近年の大きな進歩にもかかわらず、環境的に持続可能な分野であると言えるようになるには、まだ道半ばであることを認識しています。私たちは「スポーツを通じた気候行動枠組み」に署名することで、世界中のスポーツおよび開発のためのスポーツに関わる団体、協会、機関が、気候変動に関するパリ協定の実施を支援する重大な必要性を確認しています。今世紀後半に温室効果ガスの排出をゼロにするために必要な変革を加速させるために、私たちは1つの分野としての役割を果たさなければなりません。

ローレウスは「スポーツを通じた気候行動枠組み」に記載されている原則を支持・実行し、世界中のパートナーと協力して、私たちの分野における気候変動の課題に率先して取り組んでいきます。

メルセデス・ベンツが提供するグリーン・チャレンジ

私たちのプログラムに参加している子どもや若者は、日々変化する世界を目の当たりにしています。そのため、環境と気候の保護は、子どもや若者が参加する開発のためのスポーツプログラムにとって重要なものです。そこで、私たちは今回初めて、グローバル・パートナーであるメルセデス・ベンツと共同で、世界各地のローレウス・パートナープログラムに参加している若者に短い動画メッセージで、自分たちのコミュニティをもっと環境的に持続可能なものにする方法を説明してもらう企画を行いました。「ローレウス・グリーン・チャレンジ」で、参加者たちに日常生活で直面している課題について投稿動画で説明してもらいました。そして若者に、責任を持って行動し、プログラムやコミュニティで何をするべきか提案してもらいました。優勝者には、その提案を実行するための資金として1万ユーロが贈られました。

優勝者は、コロンビアのFundación Colombianitos

Young Reforesters and Recyclers of Peaceは、コロンビアのFundación Colombianitosに所属する若いコミュニティリーダー5人が発表したプロジェクトです。このプロジェクトは、コロンビアのウバラ地区にあるラグナ・アズールというコミュニティが直面している環境問題を把握する現地見学をきっかけに提案されました。主要な問題は、土地の侵食とリサイクル施設不足という2点でした。

2020年を通して、新型コロナウイルス感染症の流行によってもたらされた困難にもかかわらず、マスクを着けながらもプロジェクトを実施し、コミュニティ全体を動かし、コミュニティを改善していくための支援や参加を促進することに成功しました。このプロジェクトには、森林再生、廃棄物管理戦略の開発、環境の持続可能性の実践に関する地域の認知度向上などの活動が含まれていました。

ケーススタディ

ローレウス南」アフリカ「人生を変える

ローレウスは2002年に南アフリカの国内財団を設立しました。これはグローバルオフィス以外で初めて設立された財団であり、設立時の賛同者で公民権運動を象徴する人物である南アフリカのネルソン・マンデラ元大統領にちなんだものでした。

設立以来、ローレウス南アフリカは、「開発のためのスポーツ」プログラムを実施する50以上のパートナーを支援し、8万人を超える子どもや若者に影響を与えてきました。2020年には南アフリカ全土で30のプログラムを支援し、3万5千人以上の参加者（内52%は女の子や若い女性）に、安全で包摂的な空間で実施されるプログラムを提供しました。

新型コロナウイルス感染症の流行は南アフリカを直撃し、プログラムの実施と、リモート教育や適切な学習リソースへのアクセスの両方が被害を受けました。この事態に対応するため、ローレウスはThe Learning Trust、After School Programme Office (DCAS)、ASSITEJ SAと協力して、リソースをまとめた「Treasure Box」を作成しました。 ローレウスとそのネットワークは、主にスポーツやレクリエーション活動に注力し・ました。この学習リソースの「ワンストップショップ」により、学習者や保護者はコロナ禍のロックダウン中でも、それぞれの人格的および・情緒的開発を継続することができました。

“私は周りの人に合わせるためには法に触れることもするような、少し問題児でした。当時の自分は間違った道へ進み、方向性を見失っていました。

CoolPlayのビジョンは、子どもたちの生活、学校、コミュニティの生活に、前向きで持続的な変化をもたらすことです。 子どもたちの社会的・情緒的能力を高めることで、人生で成功する可能性は計り知れないほど高くなると信じています。

フルメロがCoolPlayに参加したのは4年前のことです。参加する前は自尊心が低く、自信もあまりありませんでした。

「私は周りの人に合わせるためには法に触れることもするような、少し問題児でした。当時の自分は間違った道へ進み、方向性を見失っていました」と、フルメロは言います。 「コーチから紹介されたこのプログラムで、今も使える貴重なスキルを学びました。 プログラムで、チームで活動する方法を学び、チーム作りの練習では互いに耳を傾けコミュニケー。ションをとることがいかに大事かを学びました」

彼はCoolPlayで、努力、規律、忍耐が目標達成に役立つことを学びました。CoolPlayで指導を受けた彼は新たな目標を達成すべく全力を尽くし、人生における悪影響から離れるようになりました。

フルメロさんは、自分の成功はCoolPlayでのコーチによるメンターシップで学習できたからだと考えています。私たちは、今後のフルメロさんの活躍を楽しみにしています。

学校での行動は変わり、成績は向上し始めました。CoolPlayやチームメイトから受けた前向きな影響に刺激を受け、もっと多くのことを成し遂げたいと思うようになりました。昨年高校を卒業したフルメロは、南アフリカのトップレベルの大学2校から全額給付奨学金を受ける権利を得ました。彼は現在、全額給付奨学金を受け、ケープタウン大学で会計学を学んでいます。

アドボカシー活動と影響

ローレウスは、地域の市長から国際連合、企業パートナー、民間パートナー、非政府組織に至るまで、主要な関係者と協働し、開発のためのスポーツのコミュニティにますます多くのリソースを活用しています。また、2030年までに持続可能な開発目標を達成するためにスポーツの力を活用することへの関心を高め、取り組みを強化しています。

私たちは2020年を通して、51の国・地域で行われている250以上の開発のためのスポーツプログラムへの財政的・技術的支援と、ローレウスが直接実施しているプログラム、そしてモニタリング、評価、調査を基に、さまざまな活動に携わってきました。私たちはこのような活動を通して意思決定に影響を与えるとともに、権利を奪われたコミュニティでリスクにさらされている子どもや若者を支援する手段としてのスポーツを推進するため、地域コミュニティからの声を促進・拡大させてきました。 2020年に行われた活動の中からいくつかをご紹介します。

国連事務総長

新型コロナウイルス感染症の流行による制限が開発のためのスポーツ分野にどのような影響を及ぼしたかを幅広く調査するため、国連経済社会局は、国連事務総長が国連総会で発表した新型コロナウイルス感染症の世界的パンデミック後の社会を回復させるためにスポーツが果たすことのできる役割に関する報告書への参加を、ローレウス・スポーツ・フォー・グッドに呼びかけました。ローレウス・スポーツ・フォー・グッドの助成事業部門のグローバル・ディレクターであるモーテン・シュミット博士は、世界中の幅広いパートナーから集めたデータを照合してまとめ、開発のためのスポーツ分野からの声や提言を報告書にして、国連総会に提出しました。報告書は7月に発表され、10月に発行されました。

ニューヨーク市議会

ローレウス・スポーツ・フォー・グッドの最高責任者であるアダム・フレーザーは、ニューヨーク市議会の公園・レクリエーション委員会で証言を行いました。フレーザーは、スポーツを用いた青少年育成分野の強みと機会をテーマに、資金調達と能力構築におけるローレウスの役割、この分野の知名度を高めてリソースを強化するための官民連携やチームとアスリートのパートナーシップの重要性、コロナ禍の影響を最も受けている若者やコミュニティの支援に用いられるスポーツならではの力を例に挙げて語りました。委員会での議論を重ねた結果、ニューヨーク市では、市の若者のためのスポーツに対する公平性とアクセスを向上するため、スポーツ・レクリエーション局を設立しました。

スポーツを通じた心の健康と幸福に関する地域フォーラム

ローレウス・スポーツ・フォー・グッドは12月に香港特別行政区ジョッキークラブと共同で、子どもと若者のメンタルヘルスと幸福の強化にスポーツが果たすことのできる役割について理解を深めることを目的とした、3日間のオンラインフォーラムを開催しました。このフォーラムには合計737名が参加登録し、内507名は香港特別行政区、230名はその他の国・地域からの参加でした。 フォーラムでは、ローレウス・アンバサダーやアカデミー・メンバーと議題の専門家を交えた討論が行われ、人生における課題にどう対処してきたかを話し合いまし・た。今回のフォーラムでは、「モデルシティ香港」を第3段階へと発展させ、スポーツを通じた香港の若者のメンタルヘルスと幸福の向上を目的とした取り組みに対する投資を開始するための準備が行われました。

ローレウス・ワールド・スポーツ・アワード

ローレウスは、「スポーツの力で世界を変える」という目的を成し遂げるために尽力しています。変化を起こすための世界的なコミュニケーション・プラットフォームを提供することは、ローレウスの戦略的アプローチの中核を成すものです。私たちは世界最大級の影響力を持つ2つの媒体を通じて、ローレウスのメッセージを発信できるという幸運に恵まれています。

アワード

ローレウスは毎年、スポーツの力で世界を変えるための支援活動を通じて、多くの人を団結させるさまざまな独自イベントや体験を提供しています。中でも最高の賞は、世界有数のスポーツ賞である「ローレウス・ワールド・スポーツ・アワード」です。これはこの分野では最も注目度の高いイベントであり、ローレウス・ファミリーが毎年、世界中の何百万人もの視聴者を前に共通の目的のために団結する、重要なプラットフォームでもあります。

2000年に初めて開催された毎年恒例のイベントでは、その年に最も活躍し、最も感動を与えたスポーツ選手の偉業を称えます。また、社会におけるスポーツの役割を象徴するような感動的な瞬間も表彰されます。これはローレウスの初代賛同者ネルソン・マンデラ氏がローレウスの第1回イベントにおけるスピーチで初めて述べたもので、ローレウスの活動に刺激を与え、平和と和解のための力としてのスポーツが持つ心を動かす力を示しました。

今日ではローレウス・ワールド・スポーツ・アワードは、スポーツ界や地域を超えてスポーツ選手が集まり、スポーツの功績を称えるとともに、社会が直面している課題を克服するための価値観や行動を採り入れていこうと世界に呼びかける、ユニークなイベントとなっています。ローレウス・ワールド・スポーツ・アカデミー（スポーツ界のレジェンドで構成されるユニークなグループ）は、各部門の最終候補者リストの中から投票によって受賞者を選出します。アカデミーは、裁量によって決定する生涯功労賞などの賞の授与も任されています。世界規模の公開投票によって受賞者を決定する、ローレウス・スポーティング・モーメント賞は、スポーツの持つ力の一例となって人々の心を1つにする感動的なストーリーを表彰します。

2020年の受賞者は、ローレウス年間最優秀男子選手賞にリオネル・メッシ選手とルイス・ハミルトン選手が史上初のダブル受賞を果たしたほか、ローレウス年間最優秀女子選手賞にシモーネ・バイルズ選手、ローレウス年間最優秀チーム賞に男子ラグビー南アフリカ代表チーム、ローレウス年間最優秀成長選手賞にエガン・ベルナル選手、ローレウス年間最優秀障害のある選手賞にオクサナ・マスターズ選手、ローレウス年間最優秀アクションスポーツ選手賞にクロエ・キム選手、そしてローレウス・スポーティング・モーメント賞2000-2020に2011年ICCクリケット・ワールドカップでインド代表チームを優勝に導いたサチン・テンドルカール選手が選ばれました。

さらに授賞式では、世界中の若者の生活を変えるために行われている優れた活動を紹介し、そのプログラムの素晴らしい活動はローレウス・スポーツ・フォー・グッド賞に選ばれます。2020年は、さまざまな分野にわたってニューヨークの若者の生活に前向きな影響をもたらしたSouth Bronx Unitedが受賞しました。

ローレウス・パーパス・ネットワーク

ローレウスには、世界で最も影響力のある支援者や賛同者のネットワークがあり、私たちのストーリーを世界に伝え、スポーツを通じて変革を促す手助けをしてくれています。200名を超えるアスリート、世界最大級のブランド、そして最大級の視聴者数を持つメディアチャンネルが、ローレウスを支援する目的で団結しています。ローレウスではこれを「パーパス・ネットワーク」と呼んでいます。彼らはローレウスの声であり、ローレウスのメッセージを何百万人もの人々に届けています。

その中核をなすのがローレウス・ワールド・スポーツ・アカデミーであり、スポーツ界のレジェンドで構成されるユニークなグループの各々がまさしく最高のレベルに達しており、多くのスポーツで極めて象徴的な瞬間を生み出しました。

オールブラックスの元キャプテンであるショーン・フィッツパトリック氏がチェアマンを務めるアカデミーのメンバーは、スポーツの力で世界中の若者の生活を変えることができる、という共通の信念のもと毎年集まり、私たちの活動を支援しています。これは2020年も変わりませんでした。アカデミーの多くのメンバーは、年間を通して「スポーツ・フォー・グッド」プログラムに関わり、参加している若者たちに刺激を与え続けています。

また、ローレウス・パーパス・ネットワークには、幸運にもローレウス・アンバサダーが参加しています。アンバサダーは、スポーツで偉業を成し遂げたり、スポーツ界に多大な貢献をした現役選手または最近引退したスポーツ選手たちです。アンバサダーは現地でのプログラム支援に時間を割き、その他さまざまな形で世界中のアカデミーやローレウス・スポーツ・フォー・グッドの活動の支援を行っています。

ケーススタディ

ローレウス・スイ」ス「女の子の権利向上

2006年に設立されたスイスのローレウス財団の目的は、スポーツを通じて子どもや若者が自己決定できる前向きな人生を送れるようになることです。この財団は、スポーツ、そしてスポーツが体現する価値観を用いて、子どもや若者の統合と自己啓発を積極的に推進しています。ジェンダー、出身、宗教、社会的背景、健康状態は問いません。ローレウスは毎年スイス国内で1万人以上の子どもたちを支援しており、社会的包摂、ジェンダー平等、女の子の権利向上に重点を置いて、安全で包摂的な空間でのプログラム提供を優先して行っています。

「カヴァロのおかげで、将来の夢を見つけることができました」と14歳のセナは言います。

ローレウス・スイスが支援しているプログラムの1つ「カヴァロ」では、恵まれない子どもたちが動物と触れ合ったり乗馬をする夢を叶えられ、 安全な環境で学習することもできます。馬の世話をすることで責任感が増すというのもメリットです。馬と関わることで若者のライフスキルが向上することは、科学研究によって明らかになっています。また、馬が若者にとって教師と友達の両方の役割を果たすことも判明しています。 単回帰分析を用いてライフスキルの向上を数値化した結果、 馬を用いたプログラムにおける若者のライフスキル向上のうち、約25%は馬術スキルの向上に起因することがわかりました。

セナは幼い頃から馬に乗りたいと思っていました。しかし家庭の経済状況から、乗馬を習うことは叶いませんでした。 彼女はこれまで5年間にわたってこのプログラムに定期的に参加し、お気に入りの馬デリアと出会いました。水曜日の放課後に厩舎に行くと、彼女は日常生活から離れてデリアと一緒にくつろぐことができます。彼女は、馬と仲良くなり世話の仕方を学べることに感謝しています。彼女は厩舎で過ごすうちに馬との付き合い方をたくさん学び、責任感を身につけ自立していきました。 結果として、人生の他の面でも多くのメリットがありました。

乗馬の後は、初心者向けの乗馬レッスンを手伝います。乗馬経験の少ない女の子たちのために、馬の手入れや鞍の取り付けを手伝ったり、レッスン中に馬の手綱を引いたりします。彼女は、乗馬や馬の世話を通じて自分の長所や興味を見いだせたことを誇りに思っています。夢は獣医アシスタントとしての実習を修了することです。

カヴァロのおかげで、将来の夢を見つけることができました。

「Reitstall Islikerで乗馬をする機会に恵まれなければ、このことに気づくことはありませんでした」と彼女は話します。カヴァロのおかげで、セナは馬への情熱だけでなく、将来の夢も見つけることができたのです。

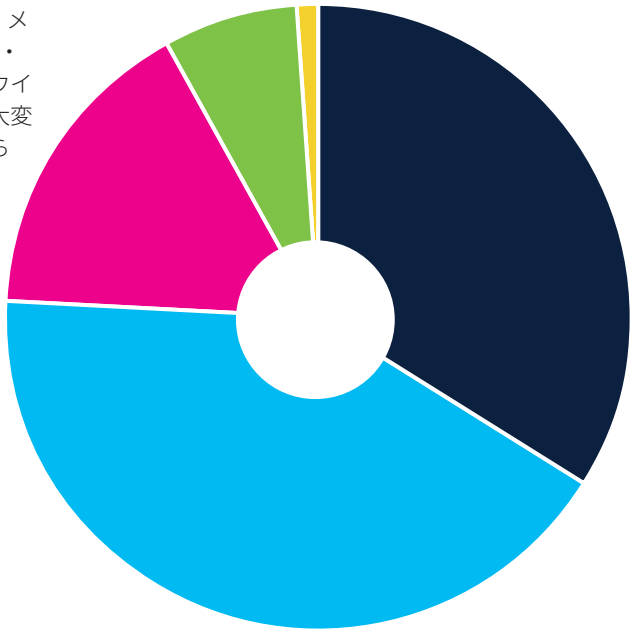
「どれだけ長く乗馬をしていても、いつも新しく学ぶことがあり、決して飽きることはありません。それが一番の魅力だと思います」と彼女は語っています。

ローレウスの財源

新型コロナウイルス感染症の流行による困難な時に、ローレウス・スポーツ・フォー・グッドと開発のためのスポーツ分野は、私たちが支援する人々やコミュニティが置き去りにされることのないよう活動を行ってきました。新型コロナウイルス感染症の流行により、多くの人々が困難に直面していますが、世界中の恵まれない若者の状況はそれ以上に過酷です。企業パートナーや団体助成金、ファンドレイジングのイベント、個人寄付者、そしてローレウス・スポーツ・フォー・グッドに寄付されているローレウス・ワールド・スポーツ・アワードの利益など、資金を提供してくださる方々の継続的な支援がなければ、本報告書で紹介してきた影響は実現できなかったことでしょう。特に、グローバルパートナーであるIWCシャフハウゼン、メルセデス・ベンツ、三菱UFJフィナンシャル・グループには、あらゆる企業が新型コロナウイルス感染症の影響を受けた一年を通じて、大変貴重な貢献をしていただいたことに、心から感謝を申し上げたいと思います。グローバル・パートナーからのご支援があってこそ、私たちは他の資金提供パートナーの参加を促進し、プログラム・パートナーのニーズに応え、慈善活動や募金活動が困難な時であってもレジリエンス力を発揮することができるのです。

ローレウスの年次決算書は、ローレウス・スポーツ・フォー・グッドのウェブサイトからご覧いただけます。

- グローバル・パートナー**34%**
- 組織による資金調達**42%**
- その他企業寄付**16%**
- イベント**7%**
- その他**1%**



ケーススタディ

ローレウス・ドイツ「＆オーストリア 変化をもたらすチャンピオン」

ローレウス・スポーツ・フォー・グッドはドイツおよびオーストリアにおいて、移民の背景を持つ若者や、経済的に恵まれない家庭出身の若者の社会的統合と社会へのアクセスに焦点を当てています。 さらに、ドイツとオーストリアのローレウスは、より包摂的でジェンダー平等な社会を目指して活動しています。

2003年にドイツで設立されて以来、カタリナ・ヴィット氏、ボリス・ベッカー氏、マリア・ヘッフル＝リーシュ氏をはじめとするドイツ人アカデミー・メンバーや、アンナ・シャッフェルフーバー氏といったアンバサダーは、ローレウスやパートナーの活動に大きく関わり支持しており、2020年もこれは変わりませんでした。その一例として、長年アンバサダーを務めているヤン・フロデノ選手は、2020年4月に「tri@home」というイベントを立ち上げました。フロデノ選手は自宅でアイアンマン（プール、サイクリングマシン、ランニングマシンを使用）を完走し、ローレウスの活動や公衆衛生対策を支援する資金として25万ユーロの募金を集めました。こうした活動には新たなパートナーが続々と参加しており、2020年にはNHLアイスホッケーのスター選手であるレオン・ドライザイトル選手と、レースパイロットのマティアス・ドルダラー選手という2名の新アンバサダーの加入が発表されました。

2020年は多くのプログラムパートナーにとって激動の年となりました。ロックダウン中、子どもや若者、中でも家庭における支援が限られている子供たちが社会的な交流、運動、教育支援を必要としていることは、コロナ禍の政治的優先事項としてはほとんど取り上げられませんでした。自宅学習やロックダウン、運動不足が、教育や健康、将来的な経済発展の面で、子どもや若者たちに与える影響が世間の注目を集めるようになったのはごく最近のことです。

制限解除後に子どもや若者に対するコロナ禍の影響に対処するうえで、私たちのパートナーが重要な役割を果たすことを理解し、私たちは一年を通してパートナーへの支援を継続しました。大半のパートナーは当初の設計どおりにプログラムを実施することに苦慮していましたが、すべてのパートナーが調整を行い、できるだけスポーツに参加したり参加者と交流したりする機会を活用しようと尽力しました。夏季に制限が緩和されると、オンラインイベントや必要なコロナ感染対策を行った新しい活動を実施しました。

18歳のナヴィドは、2016年からミュンヘンのスケートボードプログラム「HIGH FIVE」に参加しています。アフガニスタン出身の彼は、「同伴者のいない未成年者」として家族を伴わずにドイツにやってきました。 HIGH FIVEでは、それまで経験したことのなかったスノーボードを学び始めました。 この活動を通じて、スムーズに人とのつながりを作ったり新しい友達を見つけたりすることができました。スノーボードが上達するにつれ、自信も高まっていきました。 今では、プログラムの新しい参加者を支援したり、アシスタントコーチとしてサポートを行っています。彼は現在、高校卒業資格であるAレベルの取得を目指しており、スノーボードのインストラクターになりたいと考えています。

FSC
www.fsc.org
MIX
Paper from responsible sources
FSC® C106313

Global Partners

IWC SCHAFFHAUSEN

MUFG

@LaureusSport お問い合わせ先 info@laureus.com